

## 学校関係者評価報告書

学校法人穴吹学園 穴吹医療大学校 学校関係者評価委員会は、令和6年度学校自己評価に基づく学校関係者評価を実施致しましたので、ご報告致します。

令和7年9月9日

学校法人穴吹学園 穴吹医療大学校  
学校関係者評価委員会

### 1. 学校関係者評価の目的

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、穴吹医療大学校の自己評価の結果を評価することを目的とした委員会を置く。

委員会は、穴吹医療大学校が行った教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた本校の評価を行い、その結果を校長に報告する。

### 2. 学校関係者評価委員会

(委員)

|       |                                                   |
|-------|---------------------------------------------------|
| 森川 崇  | 元香川県立高等学校 校長                                      |
| 植松 陽司 | 香川県立高松北高等学校 校長                                    |
| 神前 知弘 | 香川県立三本松高等学校 校長                                    |
| 金川 真也 | 藤井学園寒川高等学校 校長                                     |
| 森 仁志  | 香川県保険医協会 副理事長 歯科部会会長<br>医療法人社団審美会 もり矯正歯科医院 院長(欠席) |
| 土田 佳代 | 独立行政法人 国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター                    |
| 横田 昇  | 株式会社アインファーマシーズ 人事本部 人事部担当部長                       |
| 豊田 幸政 | 医療法人 雙和会 クワヤ病院 事務長                                |
| 富山 清江 | 公益社団法人 香川県看護協会 会長                                 |
| 丹羽美裕紀 | 香川県立中央病院 副院長兼看護部長(欠席)                             |
| 南原 愛子 | 社会医療法人財団 大樹会 総合病院 回生病院 副院長兼看護部長                   |
| 横山 千晶 | 医療法人 雙和会 クワヤ病院 看護部長                               |
| 矢代 健介 | 穴吹医療大学校保護者会 支部長(欠席)                               |
| 久利 紀子 | 穴吹医療大学校 卒業生(欠席)                                   |

(学校教職員)

|       |                  |
|-------|------------------|
| 池田 耕士 | 穴吹医療大学校 校長       |
| 奈良 育代 | 穴吹医療大学校 副校長      |
| 中井 里美 | 穴吹医療大学校 副校長      |
| 横井 敦子 | 穴吹医療大学校 教務部 部長   |
| 吉田 展子 | 穴吹医療大学校 教務部 部長   |
| 林 晶子  | 穴吹医療大学校 教務部 課長代理 |
| 小林麻衣子 | 穴吹医療大学校 教務部 主任   |

### 3. 学校関係者評価委員会実施日時

開催日時 令和7年9月9日(火) 14:30～16:00

開催場所 学校法人穴吹学園 穴吹医療大学校 402・403 教室

### 4. 自己評価結果の説明・報告(自己評価報告書参照)

当校の令和6年度の在校生動向、資格・検定取得実績、就職状況を報告の上、「教育理念」、「目的」及び「令和6年度の目標と計画」について説明。各自己評価項目について「評価結果(総括)」、と「取組状況とその分析」、「今後の改善方策等」について報告。書式は、香川県版一般社団法人香川県専修学校各種学校連合会様式にて実施。各評価項目について、「A」十分である 「B」おおむね十分である 「C」やや不十分である 「D」不十分である の4段階にて評価。

### 5. 意見交換、質疑応答

#### ○非認知能力育成への取り組みの有効性について

年度の初めに全校生に向けて非認知能力について周知をし、自己目標を設定している。そして学生は定期的に非認知能力に対する自己評価を実施している。その自己評価を分析すると非認知能力のうち「他者と繋がる力」は高まってきているが、「自分と向き合う力」「自分を高める力」が不足している。この不足が学習習慣の定着不足や国家試験の結果にも影響している可能性がある。と説明がなされた。

#### ○具体的な ICT の活用方法について

看護学科では「モノグサアプリ」などの学習アプリを利用し、学生が自分のペースで学習する環境を提供している。さらに、学校全体で Google フォームを用いた「リフレクション」(授業の振り返り)を導入している。学生が授業内容の自己評価や理解度を入力することで、教員は個々の学生の理解度を把握でき、個別アプローチや次回の授業の冒頭でのフィードバックに活用していると説明がなされた。

#### ○学生募集の方法と、募集活動を通じて感じる生徒の特性の変化について

看護系専門学校は、大学への志望者が増えている影響で受験者数が減少している。コロナ禍の影響により医療系職種に対する志望者が全国的に減少しており、本校もその影響を受けていると感じている。その中で募集戦略として高校生に響くよう、3分未満(または1分未満)の短時間映像や、SNS(Instagram)の活用に注力している。学生の日常生活や学びの風景を、分かりやすい言葉を添えて発信し、学校への愛着を育む努力もしている。また、職業の楽しさや魅力を伝えるため、高校等に教員を派遣し、体験授業や分野説明会を実施していると説明がなされた。

本日は貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。これからも皆様のご期待に添えますよう、教職員一同、日々努力して参りますのでよろしくお願い申し上げます。

以 上